

CentreCOM

HS826TX V1

ユーザーマニュアル

ご注意

本書の中に含まれる情報は、当社(アライドテレシス株式会社)の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。当社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright © 2001 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。
Windows、Windows NT は、米国Microsoftの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
本マニュアルの中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

安全のために

必ずお守りください



警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。
本製品は AC100 - 240V で動作します。
なお、本製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですのでご注意ください。



電圧注意

正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。
接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。



3ピンコンセント

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを
抜く

電源ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュースを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはいはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

このマニュアルについて

このたびは、CentreCOM HS826TX V1(以下、HS826TX V1)をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

HS826TX V1は、HomePNA(1.1)インターフェースを24ポートと10BASE-T/100BASE-TXインターフェースを2ポート装備したHomePNA対応スイッチです。

内蔵されたソフトウェアによって、ターミナルポートから簡単な設定が可能です。

本書では、ご使用いただくうえでの注意事項や設置の方法、ソフトウェアの設定方法、付録で障害が発生したときの対処方法や製品仕様について説明しています。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

マニュアルバージョン

2001年 7月 Rev.A 初版

このマニュアルについて

表記規則

本書の表記規則を以下に示します。

アイコン	意味
	ヒント 重要な情報や指示を示します。
	注意 人体やシステムに危害や損害がおよぶ恐れがあることを示します。
	警告 人体に重大な危害がおよぶ恐れがあることを示します。
	手順 操作手順を示します。
	参照 参照ページ・参照項目を示します。

マニュアルの構成

本書の構成は、以下のとおりです。

1 はじめに

本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

2 ソフトウェアの設定

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの設定方法、メニューの操作、各機能と設定内容について説明しています。

3 付録

トラブルシューティングおよび製品仕様について説明しています。

4 保証とユーザーサポート

本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書の記入方法について説明しています。

1

2

3

4

目次

1	はじめに	1-1
1	梱包内容	1-2
2	特長	1-3
3	各部の名称と働き	1-4
	前面 / 背面	1-4
	側面	1-6
4	設置	1-7
	設置するときの注意	1-7
	設置方法	1-8
5	接続	1-11
	ネットワーク機器を接続する	1-11
	カスケード接続	1-12
	HomePNA 構成例	1-14
	コンソールを接続する	1-15
	電源ケーブルを接続する	1-17
6	マルチプルVLAN構成	1-18
2	Local Management System	2-1
1	接続方法	2-2
	VTTERM の設定手順	2-2
	Windows 95/98、Windows NT の「ハイパーターミナル」の接続方法	2-2
	IP アドレスの設定	2-4
	Telnet の設定手順 (Windows 95/98/2000、Windows NT)	2-5
	CentreNET PC/TCP の設定手順 (MS-DOS、Windows 3.1)	2-7
	HTTP (Web ブラウザーを使用)	2-9
2	Local Management System	2-10
3	メニューの設定	2-11
	メインメニュー	2-11
	スイッチ設定	2-15
	システムリポート	2-22
	ソフトウェアアップグレード	2-23
	ネットワーク情報	2-24
	クロストーク調整	2-25
3	付録	3-1
1	トラブルシューティング	3-2
	トラブルと思ったら	3-2
2	仕様	3-4
	コネクター / ケーブル仕様	3-4

本製品の仕様	3-6
4 保証とユーザーサポート	4-1
1 保証とユーザーサポート	4-2
保証	4-2
ユーザーサポート	4-2
2 調査依頼書のご記入にあたって	4-3
使用しているハードウェアについて	4-3
お問い合わせ内容について	4-3
ネットワーク構成について	4-3
調査依頼書 (CentreCOM HS826TX V1)	4-4

1

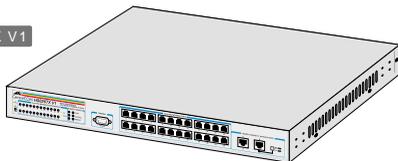
はじめに

本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

1 梱包内容

CentreCOM HS826TX V1本体 1台

HS826TX V1



ゴム足（貼り付けタイプ）
4個



電源ケーブル 1本

ユーザーマニュアル(本書) 1冊



製品保証書 1枚
お客様インフォメーション登録カード 1枚
シリアル番号シール 3枚

ブラケット取り付け用
皿ネジ 16本

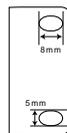
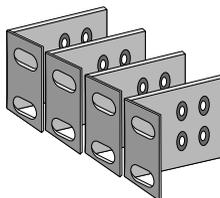


19インチラックマウント用
鍋ネジ 4個



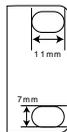
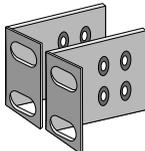
▶ ラックによっては、適合しない場合があります。
その場合は、ご使用のラックに付属のネジをお使いください。

壁掛け用ブラケット 4個

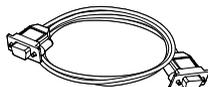


壁掛け用（4個）
（ネジ穴が小さい）

19インチラックマウント用
ブラケット 2個



ラックマウント用（2個）
（ネジ穴が大きい）



RS-232Cクロスケーブル(1.8m) 1本

最初に梱包箱の中身を確認してください。

本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

1

はじめに

2 特長

既存の電話回線を使用して、最大 1Mbps のデータ通信が可能

24 ポートの HomePNA ポートを装備

アップリンクポートとして 10BASE-T/100Base-TX ポートを 2 ポート装備し (うち 1 ポートはカスケード切替可能)、スイッチやルーターなど、他のネットワーク機器と接続可能

集合住宅向け用途として、各ポート間のセキュリティを確保する機能 (マルチプル VLAN) が工場出荷時にあらかじめ設定済み (構成は変更不可)。

電源を内蔵

19 インチラックマウント、壁掛けキット付属

10BASE-T/100Base-TX ポートは、ポートごとにオートネゴシエーション、Full duplex/Half duplex の通信モード、10Mbps/100Mbps の通信速度が設定可能

フローコントロール機能をサポート (バックプレッシャーが常に有効。Full Duplex 時、PAUSE パケットの送信を指定可能)

最大約 8,000 個の MAC アドレスを登録可能

信頼性の高いストア & フォワードのスイッチング方式

RS-232 や Telnet で接続しているコンソールから内蔵ソフトウェアへのアクセスが可能

SNMP エージェント機能による監視が可能

TFTP によるソフトウェアのダウンロードが可能

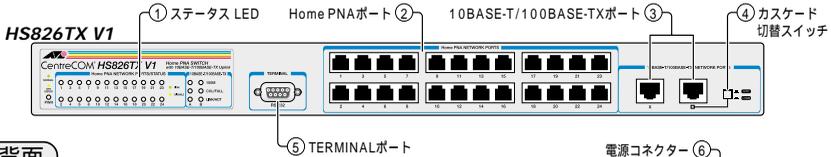
1

はじめに

3 各部の名称と働き

前面 / 背面

前面



背面



ステータス LED

- POWER:
[緑] 電源が正しく供給されていると、緑色に点灯します。
[黄] DRAM テストに失敗すると、黄色に点灯します。NIC コントローラのイニシャルテストに失敗すると、ゆっくり点滅します。スイッチコントローラのイニシャルテストに失敗すると、速く点滅します。

[HomePNA NETWORK PORTS/STATUS 部]

- LINK:
[緑] ポートと接続先の機器がリンクしたときに点灯します。
[黄] ソフトウェアにより無効と設定されているときに点灯します。

[10BASE-T/100BASE-TX 部]

- 100 M(緑) 100Mbps 時に点灯します。
- FULL(緑) Full Duplex 時に点灯します。
Half Duplex 動作時に、データの衝突を検知 (コリジョンが発生)した場合に点滅します。
- LINK/ACT(緑) ポートと接続先の機器がリンクしたときに点灯します。
また、ポートがパケットを送受信しているときに点滅します。

HomePNA ポート

テレホンコードを接続するモジュラージャック (RJ-11) です。

24個のポートはそれぞれ、VLAN機能を持っているため、送受信されるデータの内容が他のポートへ流れることはありません。

 1-18 ページ「マルチプルVLAN構成」

10BASE-T/100BASE-TX ポート

10BASE-Tではカテゴリ 3 以上のUTPケーブルを、100BASE-TXではカテゴリ 5 以上のUTPケーブルを接続します。

スイッチやルーターなど、他のネットワーク機器と接続することで、アップリンクポートとして使用できます。また、Bポートは、カスケード切替スイッチにより、MDIとMDI-Xを切り替えることが可能です。

カスケード切替スイッチ

カスケードポート(10BASE-T/100BASE-TXポートのBポート)を、カスケード接続用ポートとして使用するか、通常の10BASE-T/100BASE-TXポートとして使用するかを設定することができます。

X PC  (スイッチが飛び出している状態)

通常の10BASE-T/100BASE-TXポート(MDI-X)として使用します。

= HUB  (スイッチが押し込まれた状態)

カスケード接続をするときのカスケードポート(MDI)として使用します。

(RS-232)TERMINAL ポート

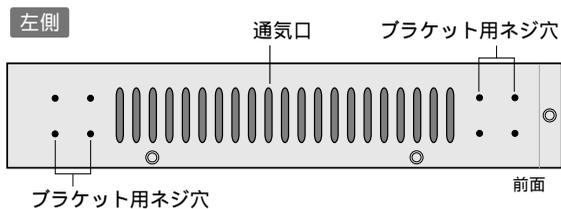
本体とコンソールとを接続してソフトウェアを使用するためのコネクタです。コネクタは9ピンオスタイプです。ケーブルはRS-232クロスケーブルを使用します。

電源コネクタ

電源ケーブルを接続するためのコネクタです。

3 各部の名称と働き

側面



1

はじめに

通気口

熱を逃がして空気の循環をよくするための通気口です。

ブラケット用ネジ穴

同梱の 19 インチラック用ブラケットを取り付けるためのネジ穴です。

 1-10 ページ「19 インチラックへの取り付け」



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

4 設 置

設置するときの注意

本製品の設置や保守を始める前に、必ずiiiページの「安全のために」をよくお読みください。

設置場所については、次の点にご注意ください。

電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置はさけてください。

テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。

傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。

本体の上に物を置かないでください。

直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。

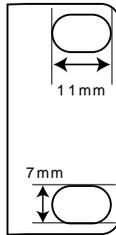
19インチラックまたは壁に設置する際は、正しいブラケットを使用してください。

本製品を設置するためのブラケット

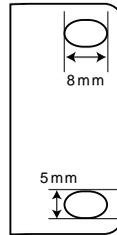
本製品には、19インチ・ラックマウントへ取り付けするためのブラケット(2個)と、壁掛け用のブラケット(4個)の2種類が同梱されています。

この2種類のブラケットは、なべネジ用のネジ穴のサイズが異なります。

次の図を参考に、正しいブラケットを使用して取り付けてください。



ラックマウント用(2個)
(ネジ穴が大きい)



壁掛け用(4個)
(ネジ穴が小さい)

設置方法

設置方法には、机上に設置する方法、EIA規格の標準ラックに取り付ける方法および壁に取り付ける方法があります。

1

はじめに

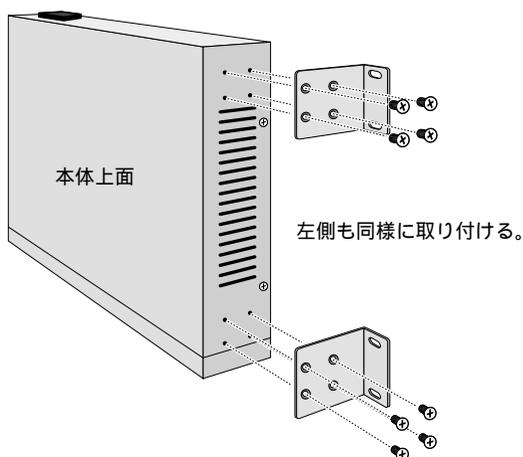
▶ 机上に設置

本製品を机上に設置する場合、付属のゴム足(貼り付けタイプ)を、本体裏面のゴム足取り付け位置(4カ所)に取り付けて、使用してください。

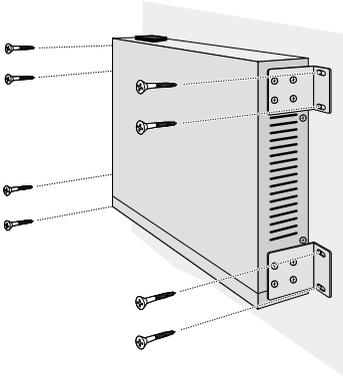
▶ 壁への取り付け

同梱の壁掛け用ブラケットを使用して、本製品を壁へ取り付けることが可能です。

1. 次の点を考慮して、設置場所と設置方向を決めます。
 - ・ ケーブルの接続が可能であること
 - ・ LEDの表示が監視可能であること
2. 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
3. ゴム足は、取り付けられた状態でも壁への取り付けが可能です。
4. 皿ネジを使用して、ブラケットを本体の両側面に取り付けます。1個のブラケットにつき4本(合計16本)の皿ネジを使用します。



5. 取り付けたい壁面に、ネジでしっかりと固定します。

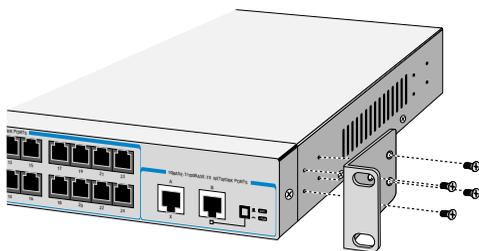


- ❗ 本製品には、壁に取り付けるためのネジは、付属していません。各自ご用意ください。また、本製品(3.0kg)にケーブルを加味した重量を確実に支えるのに十分な強度のネジを使用し、1個のブラケットにつき2本(合計8本)のネジでしっかりと固定してください。
- ❗ 高所に取り付ける際には、特に注意して、確実に壁に固定してください。固定が不十分な場合、落下による怪我や、本製品が破損するおそれがあります。
- ❗ 取り付け面の状態、取り付けネジによっては、十分な取り付け強度を得られないことがあります。機器およびケーブルの重みによって本製品が落下しないよう、確実に、取り付け・設置を行ってください。怪我や本製品の破損の原因になることがあります。
- ❗ 振動・衝撃の多い場所や、不安定な場所には設置しないでください。落下による怪我や、本製品の故障の原因になることがあります。
- ❗ 取り付け面によっては、本製品の設置の際に、被着面の塗装などに傷が付く場合があります。
- ❗ 石膏ボード、ベニヤなど、中空になっている壁に取り付ける場合は、プラスチックアンカー等を併用してください。

▶ 19 インチラックへの取り付け

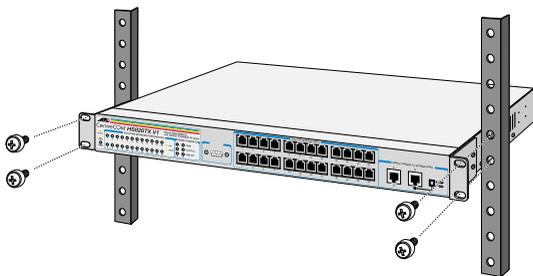
同梱の 19 インチ・ラックマウント用ブラケットを使用して、EIA 規格の 19 インチラックに取り付けることができます。

1. 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
2. ゴム足が取り付けられている場合は、ゴム足を取り外します。
3. 皿ネジを使用して、ブラケットを本体の両側面に取り付けます。1 個のブラケットにつき 4 本 (合計 8 本) の皿ネジを使用します。



左側も同様に付ける

4. 19 インチラックの希望する位置に本体を合わせて、本製品に付属のなベネジでしっかりと固定します。1 個のブラケットにつき 2 本 (合計 4 本) のなベネジを使用します。



- ▶ **!** ブラケットおよびブラケット取り付け用ネジは必ず同梱のものを使用し、ラックへの取り付けは、本製品に付属またはラックに付属しているネジを使用し、確実に固定してください。

固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

5 接 続

ネットワーク機器を接続する

ケーブル

HomePNAポートへの接続は、市販されているテレホンコードを使用してください。10BASE-T/100BASE-TXポートへの接続は、10BASE-Tの場合はカテゴリ3以上のUTPケーブル(ストレートタイプ)を、100BASE-TXの場合はカテゴリ5以上のUTPケーブル(ストレートタイプ)を使用してください。

弊社販売のシールド付カテゴリ5ケーブルも使用できます。

すべてのケーブルが機器間を接続するために適切な長さであることを確認します。本製品のAポートおよびBポートと端末を接続するケーブルの長さ、また、本製品のAポートおよびBポートとリピーターやスイッチを接続するケーブルの長さはすべて100m以内にしてください。

起動と停止

電源ケーブルのソケット側を本体背面の電源コネクタに接続し、プラグ側を電源コンセントに差し込むと起動します。

電源ケーブルのプラグ側を電源コンセントから抜くと停止します。

! 本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

! 電源ケーブルのプラグ側を電源コンセントに差し込んだまま、ソケット側を抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

接続手順

1. HomePNAポートに、テレホンコードを接続します。
2. テレホンコードのもう一端を、MDF(Main Distributing Frame)の二次局側に接続します。
3. 本体前面の10BASE-T/100BASE-TXポートにUTPケーブルを接続します。

4. ネットワークに接続する端末に、10BASE-T/100BASE-TXネットワークインターフェースカードが正しく取り付けられていることを確認して、UTPケーブルのもう一方を端末のネットワークインターフェースカードに接続します。
5. 電源ケーブルのソケット側を本体背面の電源コネクタに接続し、プラグ側を電源コンセントに差し込みます。

カスケード接続

本製品では、カスケードポート(Bポート)を使用することで、ケーブルをクロスタイプに変更することなく、簡単にカスケード接続を行うことができます。また、スイッチ同士のカスケード接続は、カスケードできる数に理論上の制限がありません。そのため、用途に合わせてネットワークを拡張することができます。

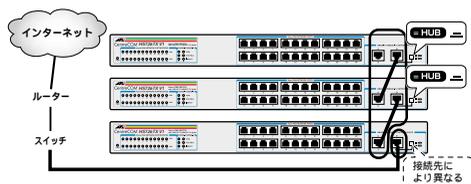
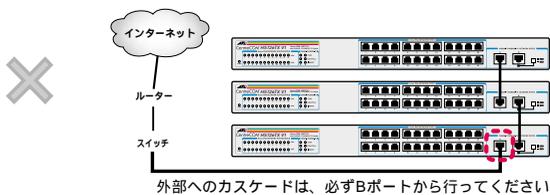
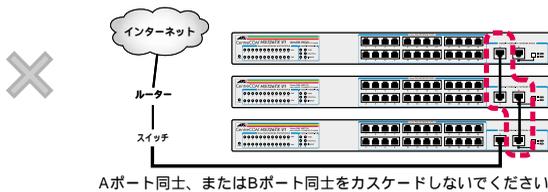
 カスケードの段数はネットワーク上で動作しているアプリケーションのタイムアウトによって制限される場合があります。

本製品のAポートおよびBポートとリピーターやスイッチを接続するUTPケーブルの長さは100m以内です。

本製品同士をカスケード接続する際は、1台目のカスケードポート(Bポート)と2台目の10BASE-T/100BASE-TXポート(Aポート)をUTPケーブル(ストレートタイプ)を接続します。

本製品から他のスイッチングHUB等へ接続する際は、必ず、カスケードポート(Bポート)から接続します。

カスケード接続方法



コンソールを接続する

コンソールを使用して内蔵ソフトウェアにアクセスする場合は、RS-232クロスケーブルで、本体前面ターミナルポートとコンソール側のRS-232コネクタを接続します。

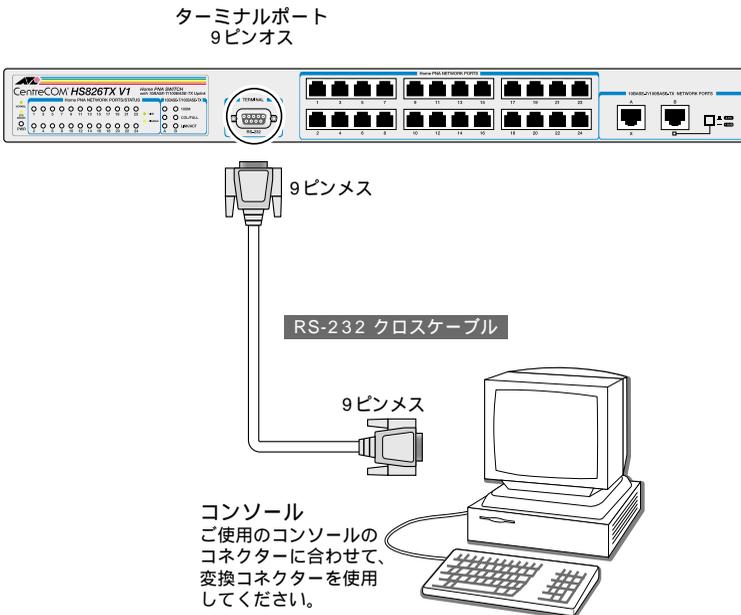
i ターミナルエミュレーションソフトの設定については、次章の「ソフトウェアの設定」で説明します。

コンソール

コンソールは、VT-100互換のターミナルエミュレータを実行するRS-232コネクター付きPCおよびワークステーション、またはRS-232コネクター付き非同期ターミナルのご使用をお勧めします。

ケーブル

ケーブルは同梱のRS-232クロスケーブル(9ピンメス 9ピンメス)を使用します。接続する機器に合わせて、別途変換コネクタを用意してください。

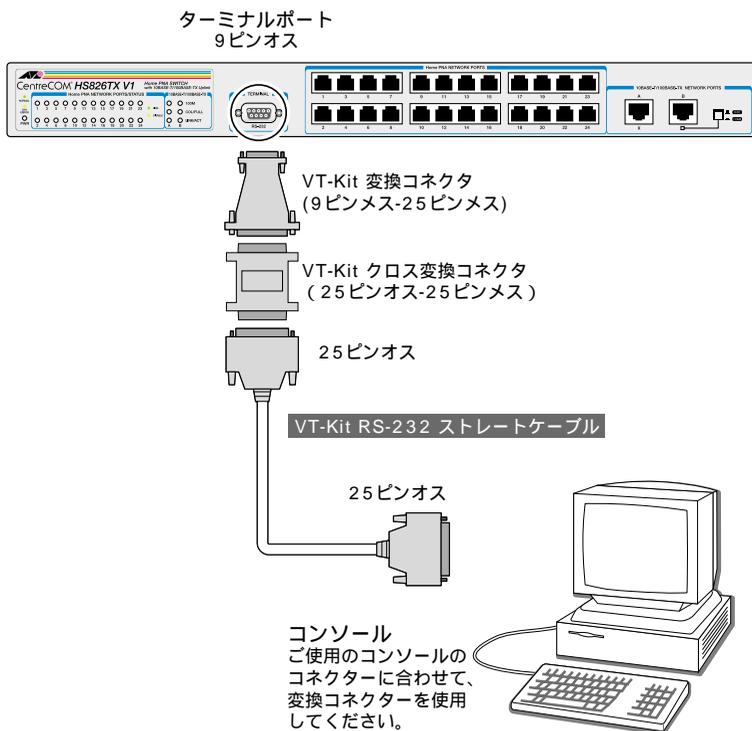


VT-Kit を使用する場合

弊社では、PCをコンソールとして使用するためのVT-100エミュレーションとRS-232ケーブルをセットにした商品「VT-Kit」を販売しております。

弊社 VT-Kitを使用する場合は、図のように本製品とコンソールを接続します。VT-Kitは、PC-9800シリーズ、およびIBM-PC/XT/AT、DOS-V、AX機のいずれのPCでもご使用いただくことができます。

- セット内容：
- ・RS-232 ストレートケーブル(25 ピンオス -25 ピンオス)
 - ・各種変換コネクタ
 - ・VTTERM(MS-DOS 版端末エミュレーション)

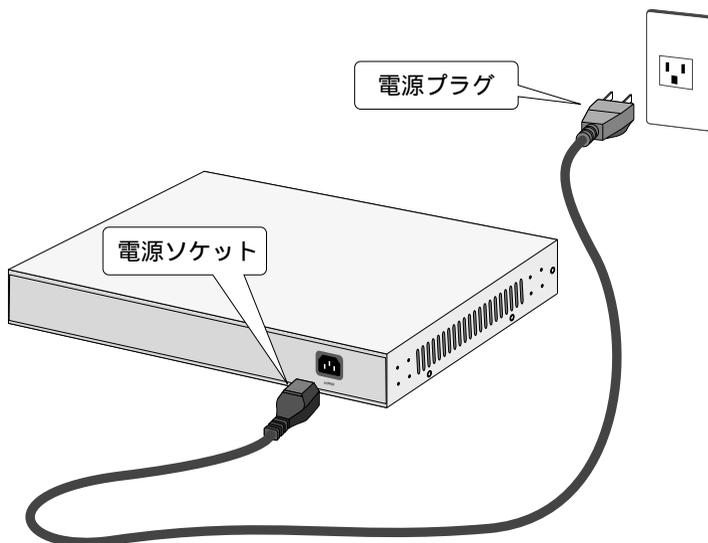


電源ケーブルを接続する

本製品は電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

▶ 本体の起動

- 1 電源ケーブルの電源ソケットを本体背面の電源コネクタに接続します。
- 2 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。
- 3 電源が入ると、POWER LED が緑に点灯します。



電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。
電源プラグに電源コンセントを接続したまま、電源ソケットを抜かないでください。

⚠ 本製品を AC 100 ~ 120V で使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。

また、指定された電源電圧以外で使用しないでください。

不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

6 マルチプル VLAN 構成

本製品のマルチプル VLAN 構成は、次の通りです。

なお、本構成は変更することができません。

1

はじめに

VLAN 1	Port 1(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 2	Port 2(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 3	Port 3(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 4	Port 4(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 5	Port 5(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 6	Port 6(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 7	Port 7(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 8	Port 8(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 9	Port 9(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 10	Port 10(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 11	Port 11(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 12	Port 12(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 13	Port 13(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 14	Port 14(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 15	Port 15(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 16	Port 16(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 17	Port 17(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 18	Port 18(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 19	Port 19(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 20	Port 20(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 21	Port 21(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 22	Port 22(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 23	Port 23(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 24	Port 24(HomePNA)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 25	Port A(10BASE-T/100BASE-TX)	Port B (10BASE-T/100BASE-TX)

2

Local Management System

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェア(Local Management System)の接続方法、設定方法および設定内容について説明しています。

1 接続方法

パソコンからLocal Management System へは、次の4つのいずれかの方法で接続します。(コンソール用RS-232 ストレートケーブルは、COM1 に接続することとします。)

弊社 VTTERM
Windows 95/98/2000、Windows NT 標準プログラム「ハイパーターミナル」
Telnet
HTTP(Web ブラウザを使用)

VTTERM の設定手順

弊社VTTERM(VT-Kit)をご使用の場合、DOS プロンプトから次のコマンドを入力して、**[Enter]**キーを押します。

```
C: ¥>VTTERM
```

VTTERM が起動し、初期画面が表示されます。

VTTERM のデフォルトの設定は、本製品の通信条件を満たしていますので、特に設定をする必要はありません。

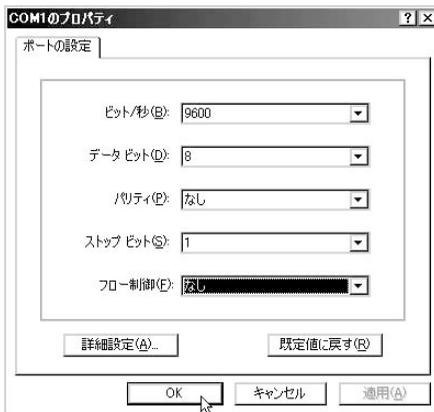
[Enter]キーを数回押すと、Local Management System のメインメニューが表示されます。

Windows 95/98、Windows NT の「ハイパーターミナル」の接続方法

Windows 95/98 、Windows NT が動作するPCやワークステーションでは、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして標準装備の「ハイパーターミナル」(Hypertrm.exe)を使用することができます。

- 1 Windows 95 の場合-[スタート]メニューの中から [プログラム]-> [アクセサリ]-> [ハイパーターミナル]を選択して、ハイパーターミナルフォルダ内の「Hypertrm.exe 」をダブルクリックして起動します。
Windows 98/2000の場合-[スタート]メニューの中から [プログラム]-> [アクセサリ]-> [通信]-> [ハイパーターミナル]を選択して、起動します。
Windows NT の場合-[スタート]メニューの中から [プログラム]-> [アクセサリ]-> [ハイパーターミナル]-> [ハイパーターミナル]を選択して、起動します。

- 「接続の設定」ダイアログボックスで、適切な名前を入力し、アイコンを選んで、[OK] ボタンをクリックします。
モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックします。
- Windows 95 の場合 - 「電話番号」ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] の欄で、[COM1 ヘダイレクト] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
Windows 98/2000 の場合 - 「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] の欄で、[COM1 ヘダイレクト] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
Windows NT の場合 - 「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。
[ポートの設定] タブの [接続方法] の欄で、[COM1] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
- 「COM1 のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、[OK] ボタンをクリックします。



1 接続方法

- 5 「XXXX- ハイパーターミナル」のような、先ほど設定した名称のウィンドウが表示されます。

[ファイル]メニューの中から[プロパティ]を選択すると、「XXXX のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

[設定]タブを下図のように設定して、[OK] ボタンをクリックします。



2

ソフトウェアの設定

IP アドレスの設定

Telnet でHomePNA スイッチの設定を開始する前に、まず、コンソールポートを経由して本製品のIPアドレスを設定しておく必要があります(「メインメニュー」「Switch Configuration」「System IP Configuration」「Set IP Address」)。次に、Telnet サーバーの使用を有効にします(「メインメニュー」「Switch Configuration」「User Interface Configuration」「Enable Telnet Server」)。

スイッチのIPアドレス設定が完了すれば、Telnet によるスイッチ管理が可能になります。スイッチのIPアドレスが172.16.5.86 と設定されている場合、次のようなDOS コマンドでLocal Management System へ接続することができます。

```
telnet 172.16.5.86
```

本製品は、4セッションまでのTelnet をサポートしているため、同時に4つのTelnet 接続が可能です。

スイッチに接続すると、コンソールポートから接続した場合と同じメニューが表示され、同様に設定を行えます。

Telnet の設定手順(Windows 95/98/2000、Windows NT)

Windows 95/98/2000、Windows NT は、TCP/IP プロトコルを実装していますので、Windows 95/98/2000、Windows NT が動作するPC、およびワークステーションでは、標準Telnet アプリケーション「TELNET」(Telnet.exe)を使用することができます。

1 ネットワークに合わせてTCP/IP プロトコルの環境設定を行います。

Windows 95 の場合 [スタート]メニューから[設定]->[コントロールパネル]で「コントロールパネル」を開きます。

「ネットワーク」をダブルクリックし、[ネットワークの設定]タブのリストから[TCP/IP]を選択して[プロパティ]ボタンをクリックして行います。

Windows 98 の場合 [スタート]メニューから[設定]->[コントロールパネル]で「コントロールパネル」を開きます。

「ネットワーク」をダブルクリックし、[ネットワークの設定]タブのリストから[TCP/IP->(ご使用のアダプター)]を選択して[プロパティ]ボタンをクリックして行います。

Windows 2000 の場合 [スタート]メニューから[設定]->[コントロールパネル]で「コントロールパネル」を開いて「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックします。

「ローカルエリア接続」を右クリックして[プロパティ]を選択すると「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。リストから[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択して[プロパティ]ボタンをクリックして行います。

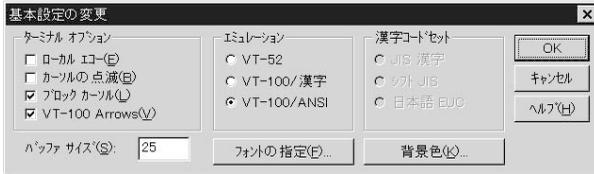
Windows NT の場合 [スタート]メニューから[設定]->[コントロールパネル]で「コントロールパネル」を開いて、「ネットワーク」をダブルクリックし、[プロトコル]タブのリストから[TCP/IP プロトコル]を選択して[プロパティ]ボタンをクリックして行います。

2 Windows 95/98/2000 の場合 「エクスプローラ」から、[Windows (WINDOWS)]フォルダ内の「Telnet.exe (TELNET.EXE)」をダブルクリックして、「Telnet.exe (TELNET.EXE)」を起動します。

Windows NT の場合 「Windows NT のエクスプローラ」から、[WINNT]->[system32]フォルダ内の「telnet」をダブルクリックして、「telnet」を起動します。

1 接続方法

- 3 [ターミナル]メニューから[設定]を選択すると、[ターミナルの設定] (基本設定の変更)ダイアログボックスが表示されます。
[エミュレーション]欄で[VT-100/ANSI]ラジオボタンをクリックします。



- 4 [接続]メニューから[リモートシステム]をクリックすると、「接続」ダイアログボックスが表示されます。
[ホスト名]欄に、あらかじめ設定しておいたIPアドレスを入力して、[接続]ボタンをクリックします。

 2-4 ページ「IPアドレスの設定」



- 5 以上で、設定が終わりしました。セッションが確立すると「TELNET session now in ESTABLISHED state」のメッセージ後にログインプロンプトが表示されます。

CentreNET PC/TCP の設定手順(MS-DOS、Windows3.1)

通常のMS-DOS パソコンおよびWindows 3.1 環境でTelnet を使用する場合は、TCP/IP 通信ソフトが必要です。

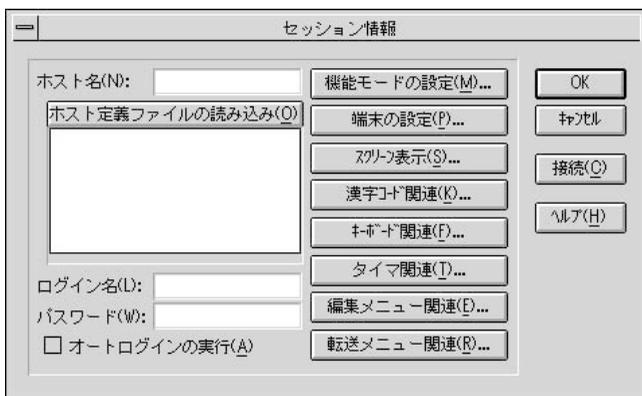
TCP/IP 通信ソフトがインストールされていない場合は、各マニュアルをご覧ください。インストールを行ってください。

ここでは、弊社「CentreNET PC/TCP 」をご使用の場合の接続方法を説明します。(あらかじめ、「CentreNET PC/TCP 」がインストールされているものとします。)

Centre NET PC/TCP には、Windows 3.1 環境で動作する「Wvtn」とMS-DOS 環境で動作する「vtn」の2つのTelnet コマンドがあります。

Wvtn

- 1 [プログラムマネージャ]->[PCTCPWIN]内の[Wvtn]をダブルクリックして、起動します。
- 2 「Wvtn」ウィンドウで、[セッション]メニューから[新規作成]を選択すると、次のような「セッション情報」ダイアログボックスが表示されます。
[ホスト名]欄に、あらかじめ設定しておいたIPアドレスを入力して、[OK]ボタンをクリックします。



- 3 以上で、設定が終わりました。

1 接続方法

vtn

- 1 MS-DOS プロンプトが起動していることを確認します。
- 2 次のコマンドを入力して、**Enter**キーを押します。

```
C:\>VTN
```

- 3 次のようなホスト名を入力するためのプロンプトが表示されます。
あらかじめ設定しておいたIPアドレスを入力して、[OK]ボタンをクリックします。

 2-4 ページ「IP アドレスの設定」

```
Host Name:
```

- 4 以上で、設定が終わりました。セッションが確立すると「TELNET session now in ESTABLISHED state」のメッセージ後にログインプロンプトが表示されます。

2

HTTP(Web ブラウザーを使用)

本製品は、LAN 経由で、Web ブラウザを使用した設定が可能です。ユーザーにとっ
て使いやすいばかりでなく、管理者にとって管理コストがかからず、セキュリティ
面でも考慮されています。

Web ブラウザーでスイッチの設定を開始する前に、まず、コンソールポートを經由
して本製品の IP アドレスを設定しておく必要があります(「メインメニュー」 「
Switch Configuration 」 「System IP Configuration 」 「Set IP Address 」)。次
に、Web サーバーの使用を有効にします(「メインメニュー」 「Switch
Configuration 」 「User Interface Configuration 」 「Enable Web Server 」)。

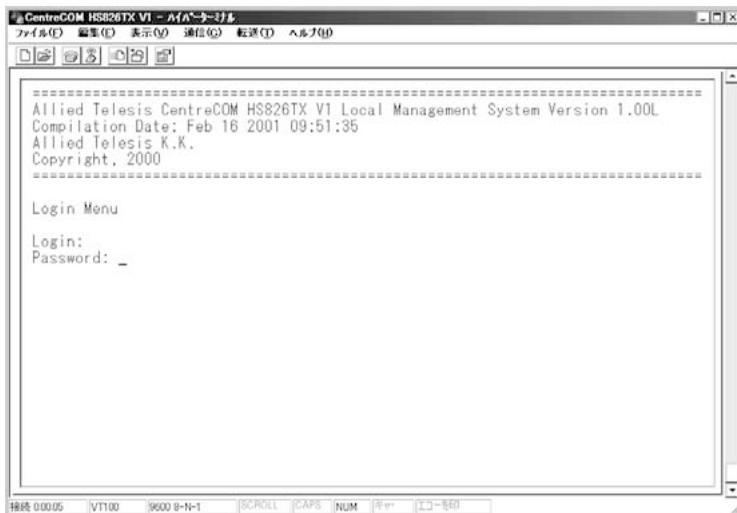
スイッチの IP アドレス設定が完了すれば、すべての Web ブラウザから設定を行うこ
とが可能です。スイッチの IP アドレスが 172.16.5.86 と設定されている場合、Web
ブラウザのアドレスに、次のように入力することで、Local Management System
へ接続することができます。

`http://172.16.5.86`

IP アドレスを入力すると、コンソールポートから管理する場合と同様、ユーザー名
とパスワードが聞かれます。設定できる内容は、コンソールポートまたは Telnet 接
続した場合と同様です。ただし、各設定終了後、必ず「確定」ボタンをクリックし
てください。

2 Local Management System

- 1 コンソールポートおよびTelnet からスイッチに接続後、**[Enter]**キーを数回押すと、Local Management System が起動し、ログイン画面が表示されます。ユーザー名とパスワードを入力し、スイッチの各設定を開始します。
工場出荷時にあらかじめ設定されているユーザー名およびパスワードは、どちらも「manager」です。



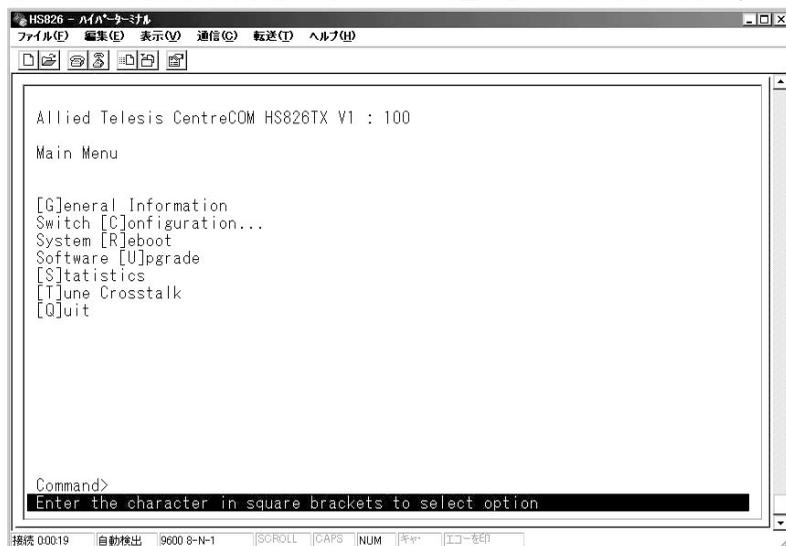
- 2 ログイン後、メインメニューが表示されます。



3 メニューの設定

メインメニュー

Local Management System にログインすると、メインメニューが表示されます。各項目の機能と設定の方法をメインメニューの上から順に説明していきます。



2

ソフトウェアの設定

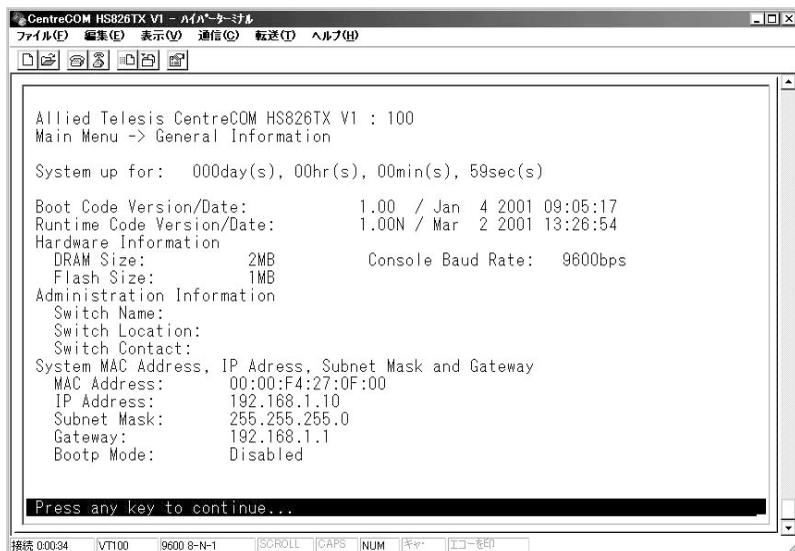
3 メニューの設定

一般情報

General Information

メインメニューで「G」と入力すると、一般情報画面が表示されます。一般情報画面には、本製品の全情報が表示されます。

任意のキーを押すと、メインメニューに戻ります。



2

ソフトウェアの設定

スイッチ設定

Switch Configuration

メインメニューで「C」と入力すると、スイッチ設定メニューが表示されます。スイッチ設定メニューでは、次の各項目の設定または変更を行えます。

System Administration Configuration

本製品のシステム名、ロケーションおよびコンタクト情報

System IP Configuration

本製品のIPアドレスやサブネットマスクなど

SNMP Configuration

SNMP設定

Port Configuration

各 HomePNA ポートおよび Ethernet ポートの設定

User Interface Configuration

- ・コンソールのUI設定
- ・TelnetのUI設定
- ・Telnetサーバー、SNMPエージェント、Webサーバーの有効 / 無効
- ・管理者名および管理者パスワード

指定したパラメータは、自動的に(設定時に)NVRAM(Non-Volatile Data Base)に保存されます。したがって、スイッチの電源のON/OFF時に、設定が自動的に保存または読み込まれます。「保存」コマンドなどを使用する必要はありません。

システムリブート

System Reboot

- Schedule Reboot Countdown
リブートまでの秒数を設定します。
- Cancel Reboot Process
リブート処理を中止します。
- Set Reboot Option
リブートオプションを設定します。
- Start Reboot Process
リブート処理を開始します。

ソフトウェアアップグレード

Software Upgrade

- Set Remote Server IP Address
ダウンロードするソフトウェアがあるリモートサーバーのIPアドレスを指定します。
- Set Remote File Name
ダウンロードするファイル名を指定します。
- Download Image File and Reboot
イメージファイルをダウンロードし、システムをリブートします。
- Set Retry Count
リトライ回数を設定します。

ネットワーク情報

Statistics

各ポートの送受信パケット数、コリジョンパケット数、およびエラーパケット数を表示します。

3 メニューの設定

CrossTalk 設定

Tune CrossTalk

各ポートのクロストーク調整を設定します。

Select Port

設定するポートを選択します。

Next Port

次のポートを表示します。

Previous Port

前のポートを表示します。

Select Receive Noise Level

受信ノイズレベルを選択します。

Select Transport Level

転送レベルを選択します。

Specify Receive Noise Value

受信ノイズ値を指定します。

Specify Driving Value of Transmission

転送送信値を指定します。

Enable Auto-tune Crosstalk

クロストークの自動調整を有効にします。

終了

Quit

Local Management Systemからログオフします。

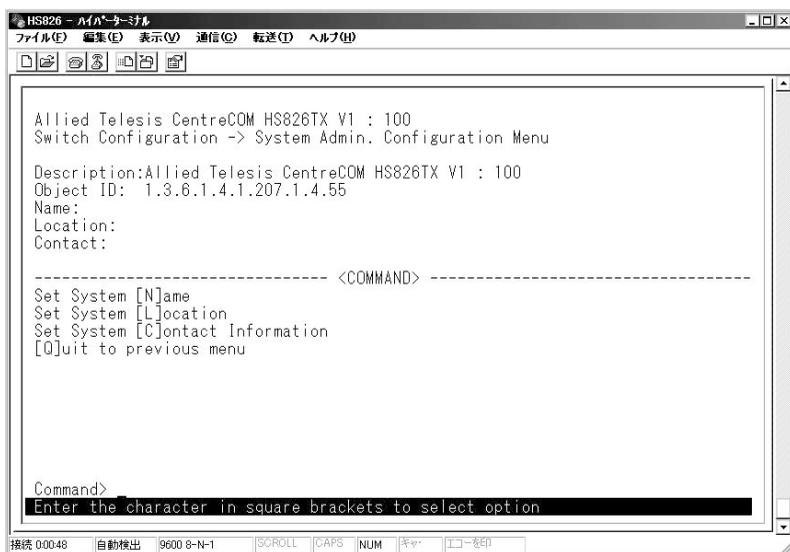
スイッチ設定

Switch Configuration

メインメニューで「C」と入力すると、スイッチ設定メニューが表示されます。スイッチ設定メニューでは、次の各項目の設定または変更を行えます。

System Administration Configuration

このメニューでは、システム管理情報を設定することができます。システム管理情報についての詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。



SetSystemName

スイッチ名を設定します。

デフォルト: なし

範囲: 50 文字以内(半角)

SystemLocation

スイッチのロケーションを設定します。

デフォルト: なし

範囲: 50 文字以内(半角)

SystemContactInformation

担当者名を設定します。

3 メニューの設定

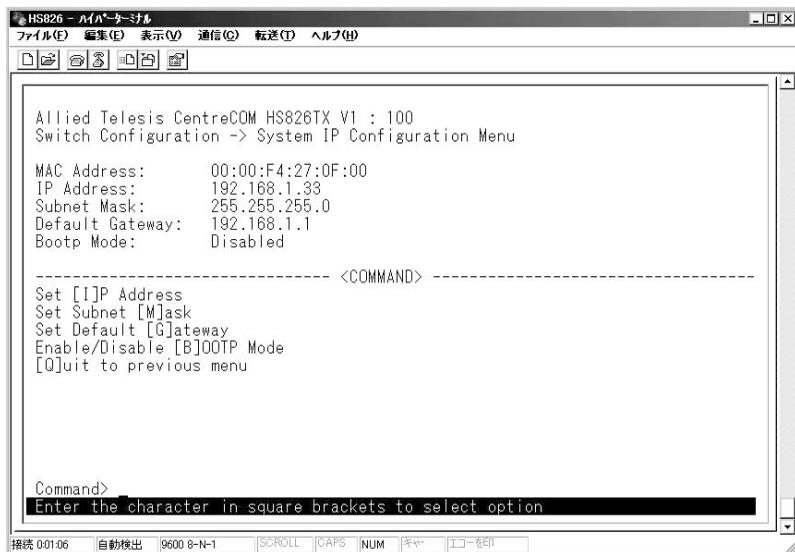
デフォルト: なし
範囲: 50 文字以内(半角)

Quit to previous menu

前のメニューに戻ります。

System IP Configuration

このメニューでは、IP 情報を設定することができます。システム IP 設定についての詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。



Set IP Address

スイッチのIPアドレスを設定します。

デフォルト値: 0.0.0.0

範囲: 「.」で区切られた、4つの10進数で指定

Set Subnet Mask

スイッチのサブネットマスクアドレスを設定します。

デフォルト値: 0.0.0.0

範囲: 「.」で区切られた、4つの10進数で指定

Set Default Gateway

スイッチのゲートウェイアドレスを設定します。

デフォルト値:0.0.0.0

範囲:「.」で区切られた、4 つの 10 進数で指定

Enable/Disable BOOTP Mode

BOOTP モードを有効または無効にします。

デフォルト:Disable

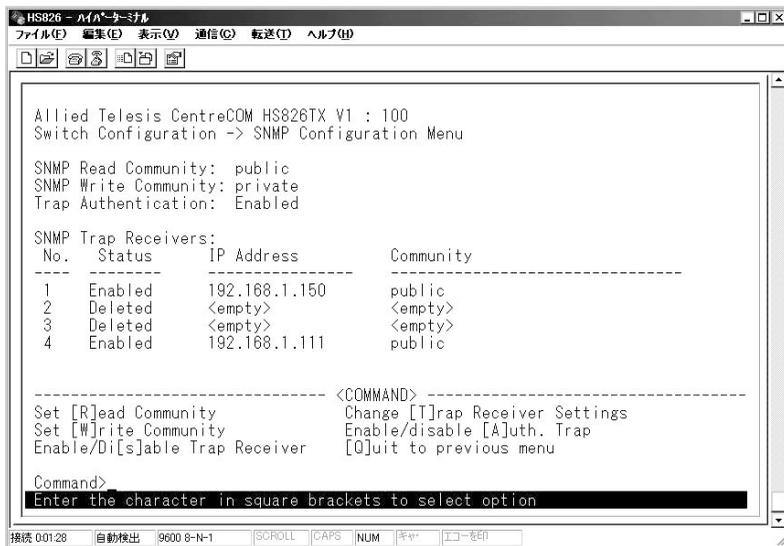
範囲:Enable、Disable

Quit to previous menu

前のメニューの戻ります。

SNMP Configuration

このメニューでは、SNMP 情報を設定することができます。SNMP 設定についての詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。



Set Read Community

SNMP の読み取りオペレーションで使用するコミュニティ文字列を設定します。

デフォルト:public

範囲:20 文字以内(半角)

3 メニューの設定

WriteCommunity

SNMP の書き込みオペレーションで使用するコミュニティ文字列を設定します。

デフォルト:private

範囲:20 文字以内(半角)

Enable/Disable Trap Receiver Setting

IPアドレスや書き込みコミュニティ名など、トラップレシーバー設定を変更します。

Enable/Disable Auth. Trap

SNMP 認証に失敗した場合、トラップを送信するかどうかを決めます。

デフォルト:Enable

範囲:Enable、Disable

Quit to previous menu

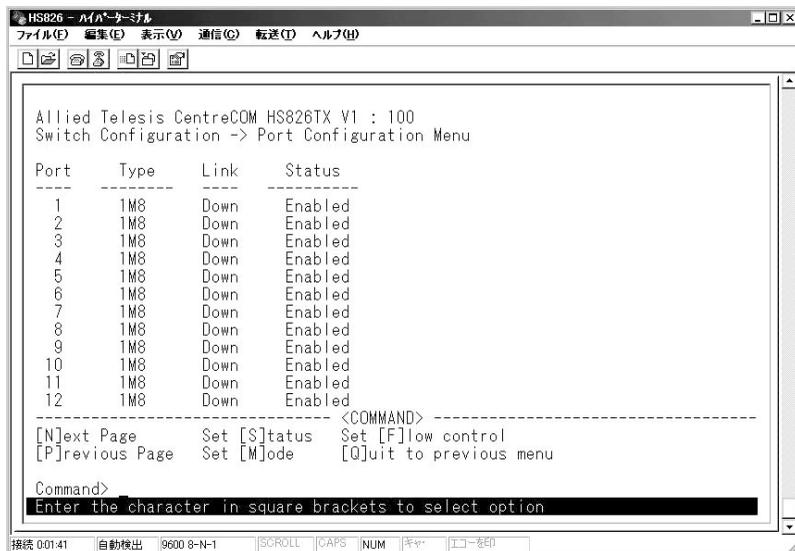
前のメニューへ戻ります。

2

ソフトウェアの設定

Port Configuration

このメニューでは、ポート設定を変更することができます。ポート設定の詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行います。



Next Page

ポート設定の次ページを表示します。

Previous Page

ポート設定の前のページを表示します。

Set Status

ポートを有効または無効にします。「Enable (有効)」を選択すると、ポートは正常に動作します。「Disable (無効)」を選択すると、ポートがテレホンコードまたはUTP で接続されている場合でも、データの送受信を行いません。

デフォルト: Enable

範囲: Enable、Disable

設定可能なポート: 1 ~ 26 (25 はポートA、26 はポートBです)

Set Mode

ポートのオペレーションモードを選択します。

デフォルト: オートネゴシエーション

範囲: Auto-Negotiation

10Mbps/Half-Duplex、100Mbps/Half-Duplex、

10Mbps/Full-Duplex、100Mbps/Full-Duplex

設定可能なポート: 25、26 (25 はポートA、26 はポートBです)

通信モードは、必ず接続先の機器を確認して、次の表の 印の組み合わせになるように設定してください。

相手ポート HS826TX V1 自ポート		10M		100M		Auto
		Half	Full	Half	Full	
10M	Half					
	Full					
100M	Half					
	Full					
Auto						

Set Flow Control

Full Duplex 通信時に、IEEE 802.3x PAUSE を有効にするか無効にするかを設定します。デフォルトは、無効(Disable)です。

また、バックプレッシャーは常に有効であり、無効にすることはできません。

デフォルト: Disable

範囲: Enable、Disable

設定可能なポート: 25、26 (25 はポートA、26 はポートBです)

i フローコントロール機能は、スイッチ内部において受信側の転送速度が送信側の転送速度より遅い場合や、受信パケットが特定のポートに集中する場合に、バッファオーバーフローによってパケットロスが生じることを未然に防ぐ機能です。バッファメモリーを監視し、空きが減少してくると、Half Duplex時はジャム信号を、Full Duplex時はPAUSEパケットを送信側のポートに送出し、一時的に送信を停止させることでフロー制御を行います。

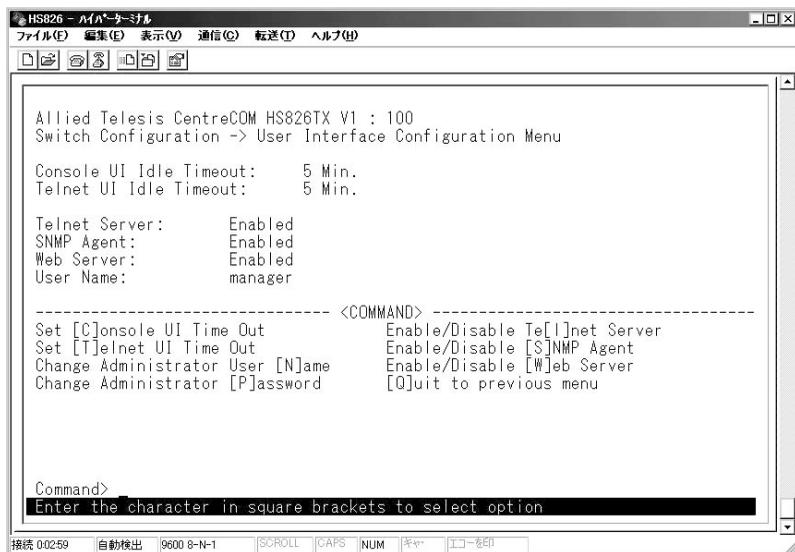
i Full duplex時のフローコントロールは、接続先の機器もIEEE 802.3x PAUSE準拠のフローコントロールをサポートしている場合に限り機能します。

Quit to previous menu

前のメニューに戻ります。

User Interface Configuration

このメニューでは、ユーザーインターフェース設定を変更することができます。ユーザーインターフェース設定の詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行います。



Console UI Time Out

ターミナルUIのタイムアウトを設定します。設定したタイムアウト期間が経過したあとにスイッチ制御を行う場合、再度、ログインする必要があります。

デフォルト: 5 分

範囲: 0 ~ 60 分。

(「0」に設定した場合は、この機能が無効になります。)

Telnet UI Time Out

Telnet UI の接続タイムアウトを設定します。設定したタイムアウト期間が経過すると、Telnet は切断されます。

デフォルト: 5 分

範囲: 0 ~ 60 分。

Change Administrator User Name

スイッチ管理者のユーザー名を変更します。

デフォルト: manager

範囲: 12 文字以内(半角)

Change Administrator Password

スイッチ管理者のパスワードを変更します。

デフォルト: manager

範囲: 12 文字以内(半角)

Enable/Disable Telnet Server

Telnet サーバーを有効または無効にします。「Disable (無効)」を選択すると、Telnet によるスイッチの各設定が行えなくなります。

デフォルト: Enable

範囲: Enable 、 Disable

Enable/Disable SNMP Agent

SNMP エージェントを有効または無効にします。「Disable (無効)」を選択すると、SNMP エージェントによるスイッチの各設定が行えなくなります。

デフォルト: Enable

範囲: Enable 、 Disable

Enable/Disable Web Server

Web サーバーを有効または無効にします。「Disable (無効)」を選択すると、HTTP によるスイッチの各設定が行えなくなります。

デフォルト: Enable

範囲: Enable 、 Disable

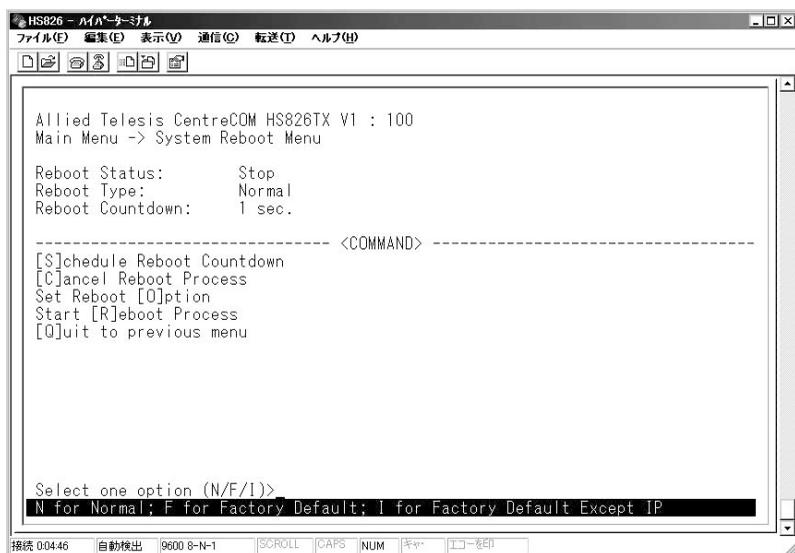
Quit to previous menu

前のメニューへ戻ります。

システムリブート

System Reboot

メインメニューで「R」と入力すると、システムリブートメニューが表示されます。システムリブートメニューでは、システムリブートに関する設定および実際のシステムリブートが行えます。システムリブートについての詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行います。



Schedule Reboot Countdown

システムをリブートするまでの秒数を設定します。

範囲:1 ~ 60 秒

Cancel Reboot Process

リブート処理を中止します。

Set Reboot Option

リブートオプションを設定します。

N(Normal)= システムリブート後、すべての設定値が保存されます。

F(Factory Default)= システムリブート後、すべての設定値が工場出荷時の値に戻ります。

I(Factory Default Except IP)= システムリブート後、IP アドレス以外のすべての設定値が、工場出荷時の値に戻ります。

デフォルト:N

範囲:N、F、I

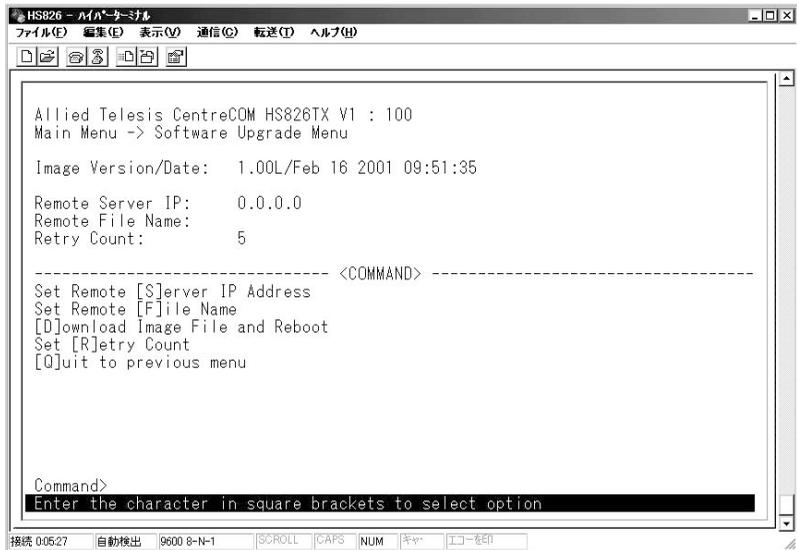
Quit to previous menu

前のメニューへ戻ります。

ソフトウェアアップグレード

Software Upgrade

メインメニューで「U」と入力すると、ソフトウェアアップグレードメニューが表示されます。スイッチで本製品では、ソフトウェアのアップグレードを行うことが可能です。ソフトウェアアップグレードの詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行います。



Set Remote Server IP Address

ダウンロード対象のソフトウェアが保存されている、リモート TFTP サーバーの IP アドレスを設定します。

デフォルト: 0.0.0.0

範囲: 「.」で区切られた、4 つの 10 進数で指定

Set Remote File Name

ダウンロード対象のソフトウェアのファイル名を指定します。

デフォルト: 空

範囲: 30 文字以内(半角)

Download Image File and Reboot

ダウンロードを実行し、システムをリブートします。

3 メニューの設定

Set Retry Count

リトライまでの秒数を指定します。

デフォルト:5

範囲:1 ~ 20

Quit to previous menu

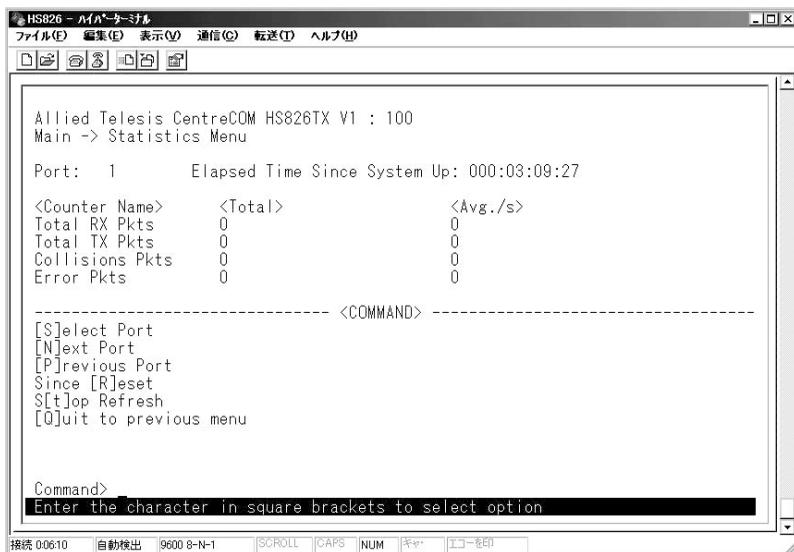
前のメニューへ戻ります。

ネットワーク情報

Statistics

メインメニューで「S」と入力すると、ネットワーク情報メニューが表示されます。ネットワーク情報メニューでは、指定したポートの送受信パケット数、コリジョンパケット数およびエラーパケット数など、パケット情報を表示します。情報は10秒ごとに更新されます。ネットワーク情報メニューについての詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行います。

尚、Total RX Pkts、Total TX Pkts、Collisions Pkts および Error Pkts の " <Avg./s> " とは、本製品が起動してからカウントしたパケット数を、起動してからの経過時間(単位:秒)で割ったものです。



Select Port

情報を表示したいポートを選択します。

範囲:1 ~ 26(25 はポート A、26 はポート B です)

Next Port

選択しているポートの次のポートを表示します。

Previous Port

選択しているポートの前のポートを表示します。

SinceReset/Up

現在のポート情報をリセットまたは再計算します。

Stop/Start Refresh

ポート情報のリフレッシュを停止または開始します。

Quit to previous menu

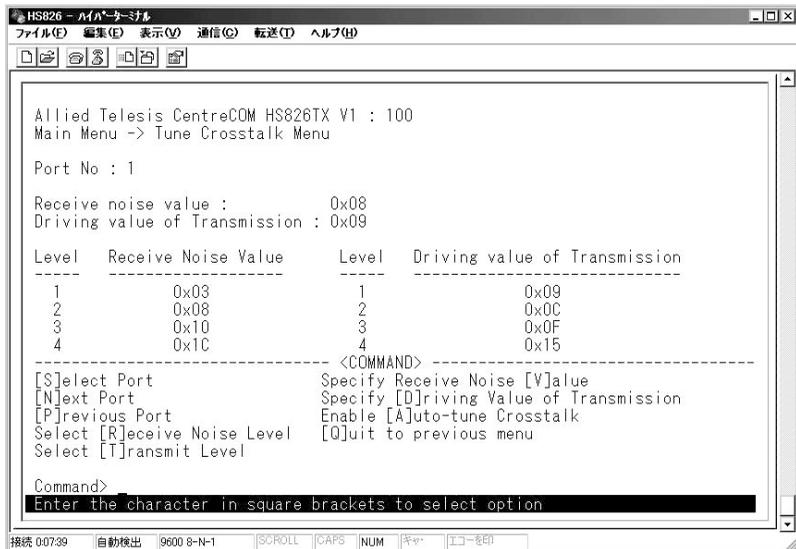
前のメニューへ戻ります。

クロストーク調整**Tune CrossTalk**

構造が簡単なベア線を多数束ねた構造のケーブルで、あるベア線で伝送される信号が他のベア線に漏れて妨害を与え、信号の欠損や送信遅延の原因となることがあります。これをクロストークと呼び、スイッチ本体や束ねられた電話線が予期しない動作をする可能性があります。

メインメニューで「S」と入力すると、クロストーク調整メニューが表示されます。クロストーク調整メニューについての詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。

i クロストーク設定は、むやみに変更しないでください。設定を変更することで、HomePNAスイッチが予期しない動作をする可能性があります。設定を変更する必要がある場合は、販売会社または工事施工会社へご相談ください。



3 メニューの設定

Select Port

設定するポートを選択します。

範囲: 1 ~ 24

Next Port

現在、選択されているポートの次のポートを選択します。

Previous Port

現在、選択されているポートの前のポートを選択します。

Select Receive Noise Level

既定の受信ノイズフィルタレベルを選択します。

範囲: 1 ~ 4

Select Transmit Level

既定の送信レベルを選択します。

範囲: 1 ~ 4

Specify Receive Noise Level

ユーザー定義の受信ノイズレベルを指定します。

範囲: 0x00-0xFF

Specify Transmit Level

ユーザー定義の送信レベルを指定します。

範囲: 0x00-0x3F

Auto-Tune Crosstalk

Auto-Tune 機能を有効にし、受信ノイズレベルを自動的に検出します。検出された値を指定するかどうかを、ユーザーが選択することが可能です。検出開始前に、メニューに表示されるステップを実行する必要があります。

Quit to previous menu

前のメニューへ戻ります。

3

付 録

この章では、トラブルシューティングおよび製品仕様について説明しています。

1 トラブルシューティング

本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの対処法について説明します。以下の処置をしても正常に動作しないときは、アライドテレシスサポートセンターまでご連絡ください。

トラブルと思ったら

トラブルが発生したときは、まず発生したトラブルやLEDの状態を確認のうえ、該当の説明をお読みください。

すべてのLEDが正しく表示しない

HomePNA ポートの確認

テレホンコードが、HomePNAポートに正しく接続されているか確認してください。POWER LEDが点灯しない場合は、電源ケーブルに断線がないか、電源ケーブルが正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

HomePNA の制限の確認

「HomePNA 構成例」を参照してください。
詳しくは弊社までお問い合わせください。

10BASE-T/100BASE-TX ポートの確認

接続先の機器に電源が入っているかを確認してください。
また、端末に取り付けられているネットワークインターフェースカードに障害がないか、ネットワークインターフェースカードに正しくケーブルが接続され、通信可能な状態にあるかなどを確認してください。

UTPケーブルが正しく接続されているか、正しいUTPケーブルを使用しているか、UTPケーブルが断線していないかなどを確認してください。
また、ケーブルの長さが制限を越えていないか確認してください。
本製品のAポートおよびBポートと端末を接続するケーブルの長さ、本製品のAポートおよびBポートとリピーターやスイッチを接続するケーブルの長さはすべて100m以内です。

電源投入時、POWER LED が黄色に点灯または点滅する

スイッチが故障しています。「1.3 各部の名称と働き」の「ステータスLED」の項目を参照してください。

10BASE-T/100BASE-TX ポートが正しく動作しない

ポートステータスが「有効」になっており、オートネゴシエーション機能が有効になっていることを確認してください（「2.3 メニューの設定」の「ポート設定」の項目を参照）。

接続先の機器に電源が入っているかを確認してください。

また、端末に取り付けられているネットワークインターフェースカードに障害がないか、ネットワークインターフェースカードに正しくケーブルが接続され、通信可能な状態にあるかなどを確認してください。

UTPケーブルが正しく接続されているか、正しいUTPケーブルを使用しているか、UTPケーブルが断線していないかなどを確認してください。

また、ケーブルの長さが制限を越えていないか確認してください。

本製品のAポートおよびBポートと端末を接続するケーブルの長さ、本製品のAポートおよびBポートとリピーターやスイッチを接続するケーブルの長さはすべて100m以内です。

カスケード切替スイッチを確認してください。

本製品のカスケードポート（Bポート）を使用して、リピーターやスイッチとカスケード接続する場合は、本製品のカスケード切替スイッチを「= HUB」（MDI）に設定してください。

本製品のカスケードポート（Bポート）同士をカスケード接続する場合は、一方を「= HUB」（MDI）に、もう一方を「X PC」（MDI-X）に設定します。

コンソールからスイッチにアクセスできない

スイッチはVT100ターミナルとして動作するように設定されています。パソコン側のターミナルソフトの設定が正しいことを確認してください。

Telnet や Web ブラウザからスイッチにアクセスできない

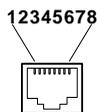
IPアドレスが正しく設定されていることを確認し、TelnetサーバーまたはWebサーバーが有効になっていることを確認してください。

2 仕様

個々では、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクターのピンアサインなどを説明します。

コネクター / ケーブル仕様

10BASE-T/100BASE-TX インターフェース
RJ-45 型のモジュージャックを使用しています。

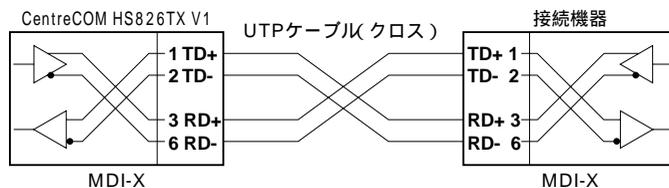
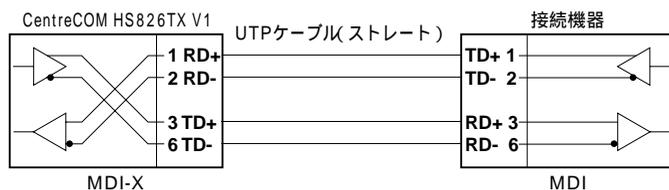


コンタクト	MDI信号
1	RD+ (送信)
2	RD- (送信)
3	TD+ (受信)
4	未使用
5	未使用
6	TD- (受信)
7	未使用
8	未使用

3

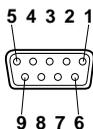
付録

ケーブルの結線は下図のとおりです。



RS-232 インターフェース

D-sub9 ピン(オス)タイプのコネクターを使用しています。



RS-232 DTE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	DCD (CD)	受信キャリア検出
2	RXD (RD)	受信データ
3	TXD (TD)	送信データ
4	DTR (ER)	データ端末レディ
5	SG (SG)	信号用接地
6	DSR (DR)	データセットレディ
7	RTS (RS)	送信要求
8	CTS (CS)	送信可
9	NOT USED	未使用

2 仕様

本製品の仕様

サポート規格	
	HomePNA 1.1 IEEE802.3 10BASE-T IEEE802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3x Flow Control
転送モード	
	ストア&フォワード
通信速度	
	10BASE-Tポート/100BASE-TXポート: 10Mbps (全二重)、100Mbps (全二重)
	HomePNAポート: 1Mbps (半二重)
MACアドレス登録数	
	8,000個 (最大)
エージングタイム	
	300秒
メモリー容量	
	1MByte
電源部	
定格入力電圧	AC100V-240V
入力電圧範囲	AC90V-255V
定格周波数	50/60Hz
最大入力電流	0.33A
平均消費電力	13W (最大17.6W)
平均発熱量	11kcal/h (最大13kcal/h)
環境条件	
保管時温度	-20 ~ 70
保管時湿度	5% ~ 95% (結露なきこと)
動作時温度	0 ~ 40
動作時湿度	10% ~ 90% (結露なきこと)
外形寸法	
	440(W) x203(D) x44(H) mm
重量	
	3kg
適用規格	
安全規格	UL1950
EMI規格	VCCIクラスA
JATE	AC01-0579JP

4

保証とユーザーサポート

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書のご記入方法について説明します。

1 保証とユーザーサポート

保証

本製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客様インフォメーション登録カード」に必要事項をご記入の上、弊社「お客様インフォメーション登録係」までご返送ください。

「お客様インフォメーション登録カード」が返送されていない場合、保証期間内の無償での修理や、障害発生時のユーザーサポートなどが受けられません。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)については、弊社は、その責を一切負わないこととします。

ユーザーサポート

ユーザーサポートを受けていただく際には、このマニュアルの調査依頼書(CentreCOM HS826TX V1)を(拡大)コピーしたものに必要事項をご記入の上、下記サポート連絡先までFAXしてください。

記入内容などについては、「2 調査依頼書のご記入にあたって」を参照してください。

サポート連絡先

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772

月～金曜日(祝・祭日を除く) 9:00～12:00

13:00～18:00

Fax: ☎ 0120-860-662

年中無休 24時間受付

2 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、障害の原因をできるだけ早く見つけるためにご記入いただくものです。ご提供いただく情報が不十分な場合には、原因究明に時間がかかったり、最悪の場合には、問題が解決できないこともあります。

迅速に問題の解決を行うためにも、弊社担当者がお客様の環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。

記入用紙に書ききれない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。

なお、状況によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

使用しているハードウェアについて

製品名、シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)を調査依頼書に記入してください。

シリアル番号、リビジョンは、製品に同梱されている(本体底面に貼付されている)シリアル番号シールに記入されています。

(例)



お問い合わせ内容について

どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に(再現できるように)記入してください。

エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

ネットワーク構成について

ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

